

現チーム初

三位以内

逃した……

初戦に大活躍した木之下



出発前に会長からの伝言を読み上げる副会長



守備でも活躍

全日本少年宮崎地区予選

第一回戦(対 生目南中)
第二回戦(対 清武中)
場所・アイビースタジアム

初戦はワールド勝ちしたものの、
続く二回戦は判定戦の末、惜敗

初戦勝利も……

主戦・名城の先発でスタ
トした初戦。球は全く走ら
ず、コントロールの抑えも
効かないという苦しい投球
内容は、肩痛の異変が原因
だったことが後に判明した
本来の力が全く出せない状
況の中、攻撃陣の奮起で小
刻みに加点を積み重ね、最
終回に予定していた投手交
代の前に、7安打8点で
6回ワールド勝ちを収めた

初戦のヒーロー

初戦の試合の入りは、若干
の硬さがあったが、徐々に
ペースを掴むきつかけをつ
くり、更にチームに勢いを
つけたのは、右骨折の故
障明けで、公式戦復帰をし
た木之下だった。

ほころびは次第に

続く二回戦は、練習試合、
公式戦の四度の対戦で一度
も負けたことのない清武中
先発多田の立ち上がりはま
ずまずの状態。三回表の攻
撃を終えた時点で、六安打
を放ち三点を先制し、完全
にペースを握ったかに見え
たが、遊撃手の守備につい
た主戦・名城の肩の状態が
想像以上に悪く、急遽二遊
間を入れ替えるという練習
したことがない苦肉の策に
出るほか無かったことから
守りのリズムも狂いだし、
三回裏の死球をきつかけに
してエラーや四死球、不意
議なジャッジも重なりアッ
という間に三点を献上。

その後も無死満塁とピン
チを背負ったが、粘りに
粘って何とか同点止まり
で切り抜ける。その後、
立ち直った多田は、一人
の走者も出さない完全投
球を展開したが、攻撃で
は安打は出ても最後の一
押しが弱く、勝ち越しし
れないまま特別延長(判
定)戦に突入した。8回
の苦しい状況を三振で凌
ぎ、その後勝ち越したも
の、9回裏は全て打ち
とつた当たりだったが、
守りきれずに現チームと
して初めて出場大会での
三位以内を逃し『佐賀経
由横浜行き』のチケット
を手にするには出来な
かった。

新体制

今年度から、副顧問・部
長として新たに川井田教
頭先生がチームに加わり
ました。今までも、応援
して頂いておりましたが、
今回からはベンチに入っ
て監督の宮越先生を支え
て下さるそうです。

編集者より

二試合を観て、『やっぱり
このチームは強いな』とは
感じました。二戦目には負
けてしまいましたが、誰が
どう観ても実力的には完全
に憶が上回っていました。
でも、勝敗は別の方向に決
まることは珍しくないし、
それが一発勝負の怖いところ
でもあり、面白いところ
でもあります。また、名城
の肩の症状を鑑みると、こ
のへんで長めの休みを与え
たほうが『佐賀経由徳島行
き』の切符を掴むためには
ヨカッタと思います。